



地区分割について思うこと

国際ロータリー元理事

地区分割委員会委員長 菅野 多利雄

当地区を中心とした分割の歴史を辿ってみますと、まず1928年の全国一地区の第70地区に始まり、ついで1939年に第70、71、72地区に分割、当地区は日本東部第70地区に所属しました。1940年9月のR. I脱退、そして1949年3月のR. I復帰を経て、1949年には全国は一地区の第60地区となりました。1952年に日本は第60地区と第61地区に分割され、当地区は前者に属しました。1955年全国4地区、1957年全国5地区で北海道と東北は第350地区となり、始めて東北から佐藤幸三氏（仙台R. C）がガバナーとなりました。1965年第350地区（北海道）、第352地区（青森、宮城、岩手）、第353地区（秋田、山形、福島）、そして1973年には東北は3地区即ち第352地区（岩手、宮城）、第353地区（山形、福島）、第354地区（秋田、青森）と分割、1977年に地区番号はそれぞれ252、253、254と改正され、昨年までつづき、本年度1991年から2520、2530、2540となり1992年7月1日より第2520地区（岩手）と第2810地区（宮城）に分割することになりました。以上が地区分割の小史であります。

以上に述べましたように7月1日から当地区は第2520地区と第2810地区の二つに分割されることになりました。同じく分割される第2550地区の2地区を数えますと、日本の地区数は33となります。地区分割については地区諮問委員会で1989年の秋以来会合を重ねて検討してまいりました。その主な理由は地区が広大で岩手県だけでも四国4県の第2670地区に、略々匹敵するくらいの地域であるという

こと、地区が広いためにガバナーの指導、運営、管理に支障を来していること、公式訪問その他でガバナーの精神的、肉体的苦勞が多いこと、会合のための費用がかさむこと、諸会合とくに地区大会や地区協議会などの開催場所に困難があることがあげられるが、さらに諮問委員会が毎年苦勞するのは、地区ガバナーの選出が容易でないことであります。地区が広く、交通も不便で、公式訪問や諸会合に多くの時間をついやすなどで、適任と考えられるロータリアンがガバナーに就任するのが躊躇することが多く、時には次年度間近かに漸くガバナーノミニーをお願いするような切迫した事態もありました。私はこのような諸事情から、地区分割もやむをえないと考えられるようになり、あわせて分割することにより地区拡大や、諸奉仕活動の活発化も期待できると信じて、諮問委員会に提案しましたところ幸いにして賛同を得ることが出来ました。その後諸手続きを経て国際ロータリーの分割委員会の決定を受け、冒頭に申し上げましたように、1992年7月1日より新生の地区がスタートすることになりました。ここで分割による地区の活発化について例をあげてみますと、長野県と愛知県で構成する第2600地区は、長野県は1986年分割前は36クラブでしたが、1992年には49クラブに拡大されましたし、昨年7月分割した第2530地区の山形県（現2800地区）は、1988年10月に38クラブでしたが、1991年12月末に45クラブとなりました。第2800地区の野川ガバナーによると1991～92年度には6クラブが誕生し、さらに2クラブが拡

大の予定ということです。

さて地区の分割にはいろいろな生みの苦しみに伴うのはさげられないことでもあります。しかし何か問題がおこった場合には、情緒的、感情的、保守的であったり、あるいは変革に対する抵抗ではなくて、「我々が強い、生命力に満ちた前向きの奉仕の組織になるために、21世紀には国際ロータリーにとって何が最善であるか」を問うことによって、最終的に解決しなければならないということでもあります。私達はこのような観点から分割を決意し、それに伴ういろいろな決定を下したことをご諒解いただきたいと思います。

次に個条書に申し上げてみたいと思います。

1. 分区再編成の件についてですが、分区は3～7クラブが適当といわれております。国内にはクラブ数会員数も多いのに分区のない地区があります。第2650地区が京都府など四県で構成され、6000余名の会員をもち第2660地区は大阪市その他で、5000余名の会員から構成されていますが、この2地区には分区はありません。東京の第2580地区も分区からおこる弊害からこれを廃し、グループ構成に本年いたしました。第2690ではIMを2乃至3の分区合同で開催しております。分区代理はあくまでもガバナーの私的代理、非公式代理であり、クラブ会長とガバナーの連絡員で公式の権限をもちません。分区代理は無報酬が原則となっております。しかし近年分区代理のあり方に疑問がなげかけられていたのも事実であります。分区代理はあくまでもその任務について、十分な知識と自覚をもって行動すべきでありましょう。しかし、今度地区が分割されて小さくなりましたので、分区代理は必ずしも必要でないと私は考えております。もしこの分区代理に伴う弊害がなくならないならば、分区代理無用論がおこってくることでしょう。また分区代理はガバナーが選り任命するのが正しいあり方で、ガバ

ナーとは無関係に決定されている従来のあり方は是正されるべきです。分区代理の選出とIMのホストクラブとは何ら関係ないことも銘記されるべきであります。

しかし適任のロータリアンがおられるときは、ホストクラブから分区代理が選出されることはIMなどの開催に好都合かも知れません。

2. 地区委員会のあり方

地区は地区の体質、体力にあった委員会組織をもつべきものと考えます。近年委員会活動が派手になり、また委員会の権限を無視して会合を開く傾向があります。またその委員会のアドバイザーに何等連絡なしに開催されることもしばしばであります。このままでは地区の組織が有名無実になると思われてなりません。この点から、地区委員会のあり方が再検討される必要があります。独断専行は許されません。恒久的な委員会が組織されることは賢明でないことを国際ロータリーは指摘しております。したがって委員は毎年交替されていくのが適当であることはいうまでもありません。このことは新人の登用のためにも重要なことであり、また委員会の活性化にも大切であります。いうまでもなくロータリー世界では定型的な地区管理または地区組織をもつことは得策でないといわれております。RACが社会奉仕でなく青少年奉仕委員会に入っている地区もあります。青少年交換が青少年奉仕に入っているところもあります。さらにアドバイザーの許可なしに開催される委員会をカバナーは認めてはいけませんし、委員会組織がある以上、各委員会の委員長がアドバイザーの頭越しにガバナーと相談して開催などを決めることはやめるべきでありましょう。開催場所も豪華なホテルなどをさけて設営する努力が必要です。委員会の専門屋を必要としないことを肝に銘ずべきと存じます。また地区資金はロー

タリアンの善意によって據出されていることを常に忘却してはなりません。

3. 元R. I 役員を活用

このことについては国際ロータリーは手続要覧でも強調しており、ガバナーに元R. I 役員知識と経験を活用するよう推奨しております。地区は元R. I 役員によって構成される地区諮問委員会を最大限に利用すべきものと思います。この委員会は地区管理のあらゆる面についてガバナーに助言するのが目的であります。勿論そのためには元役員もたえずロータリーの新しい情報に強い関心を持ち、国際ロータリーの動向に注目していることが大切であります。そうでないと指導者としての権威を失うようになります。ガバナーが主催して開かれた地区諮問委員会は、地区の最高意志決定機関といってもいいと思います。したがって、諮問委員はこの会議の決定を受諾しなければなりません。ですからこの決定と異なった個人的見解を、地区内ロータリアンに述べることは、ロータリアンをいたずらに迷わせることになるので、厳に慎まなければならないと思います。

4. 地区ロータリー情報コーディネーター

地区情報顧問としてガバナーを補佐します。地区レベルの基本的問い合わせを処理し、諸活動の情報顧問をつとめます。特別な問題や状況のコミュニケーション面における調停者、解決者の役割を果たすもので、各種地区委員会の重要な通信を受けなければなりません。1992～93年度、第2520地区は山内希史バスターガバナー、第2810地区は私が担当することになりました。

5. ロータリークラブにおける規則と規律の乱れ

ロータリーについての基本的、基礎的知識が不足しており、また国際ロータリーの新しい流れに無知な会員が多いようです。ロータリアンを指導するリーダーが育つて

いないようです。「ロータリーは個人奉仕でありロータリークラブは地域への奉仕がロータリーの基本であり、それだけでいい」と主張するロータリアンがおりますし、バスターガバナーでもこれに近い考えの人がおります。いまロータリーは大きく変わり、また変わりつつあります。ミクロ的、視野狭窄的であってははいけません。また樹をみて森をみないようでもだめです。マクロ的、グローバル的思考でロータリーを考えることが必要です。指導者の発言は大いに影響するので慎重に発言していただきたいのです。ロータリーの理念は不変ですが、それに到達する方法論は変わっています。ロータリーは時代の変化に弾力的に適応し、変革していかなければなりません。ポールハリスも「ロータリーは時代とともに変わらなければならない」といっております。ロータリーの伝統の上に新しい肉付けをすることが必要です。指導者は常にロータリーの新しい動向を学び指導していくのでなければ、その指導力を問われますし、ロータリアンから軽視されることになります。指導者もロータリアンとともに学ぶ姿勢が大切であります。また指導者はロータリアンの先に立って行動することが必要で、云いばなしではロータリアンはついてきません。またクラブ会長、幹事、分区代理もロータリーについて大いに勉強してほしいと思います。どうもあまり勉強せず、最近のロータリー情報にうとい人々が多いようで、これがロータリークラブの組織としてのあり方に悪い影響をあたえております。毎週の会長スピーチをきくと、そのクラブの内容がすぐわかります。たった一年ですから頑張ってください。また出席規定に反する会員にはいろいろな手順を経た上で、必要な断乎的決断をくだすことが大切です。出席しない会員はクラブにとって何のためにもならないし、むしろクラブの規律の乱れを助

長します。ロータリーには休会という制度はありません。メイクアップにくる会員が例会時間の60%を出席すると、我がもの顔に退席するのともうかと思えますね。

6. 創立20年、30年を経過したクラブの責任

創立の古いクラブはガバナーを送り出してほしいと思います。創立20年や30年になってガバナーを出せないクラブは、私はいいクラブだと思っていません。ガバナーズクラブとなることはクラブのステイタスとして必要です。いま創立20年以上30年未満のクラブは宮城県に15、岩手県に13あり、創立30年以上は宮城県に11、岩手県に14ほどあります。どうかこれらのクラブはガバナーを送りだされるよう協力を願います。ガバナーがでますと、そのクラブは活性化されるようです。以上日頃考えておりますことを申し上げてまいりましたが、多少申しあげにくいことも率直にお話ししましたので何卒ご容赦下さい。

さて新しく2つの地区が生まれるわけですが、前述しましたように創生期には、クラブも、地区もいろいろな生みの悩み、困難に遭遇します。このとき必要なことは個人エゴ、クラブエゴをすてて、お互いにこのくらしみを分かちあうことでもあります。私達はロータリアンです。ロータリアンとしての土俵を割って、ロータリーを論じてはなりません。考え、発言し、行動するには、常にロータリーの精神的風土の上になつて考え、発言し、行動することが大切です。

それを忘れてはロータリークラブ会員にふさわしくないし、ロータリークラブに入っている資格はありません。そのような会員は私達の友人ではありません。

ロータリーは日々変わっています。古い知識でもって現在のロータリーは論じられません。だからこそ、毎年この地区協議会やクラブ会長研修セミナーが開かれるわけです。毎年のR. I 会長のテーマを中心として行動するのがその年のロータリアンであります。今日の協議会の重要な理由です。いまやグローバル思考を無視してはロータリーの存在理由はありません。

小異を捨てて大同につき、いたみをお互いに分かちあって諸課題に対応してほしいと思います。とくに地区資金の充実なしには奉仕活動ができないのは自明であります。地区資金負担金の支払は、地区内全クラブの義務であります。この負担金が未払ですとR. I 事務局のサービスが停止されることがあります。いろいろな困難に打ち克って、今日のロータリー世界を築きあげたあのシカゴクラブ創生期の精神を思いだして下さい。即ち「寛容」の精神と、困難を克服しようと団結した「やろう」と誓ったシカゴ魂であります。どうかいま申し上げたことをしっかりと心に受けとめていただき、この地区を受けついでくれる未来のロータリアンに輝かしい地区の歴史の一頁を今日開いてあげようではありませんか。ありがとうございました。